

# 高齢期のライフスタイルと生きがい

## —高齢者・中高年障害者の社会参加促進と状況に配慮した就業促進と能力活用の取組—

千葉大学大学院人文社会科学研究科 博士後期課程 綿貫登美子

### 1 目的

高齢期の様相としていかに希望を見出せるか、高齢者だけではなくこれはあらゆる世代に共通する課題でもあることへの気づきと、高齢期はすべての人にとって未来であることから、誰もがそこから生きるエネルギーを得られるような高齢期を明るく展望できなければその存在の意味がないことになる。他者への配慮、倫理・公正性等に優れている高齢者特有のパーソナリティは今後重要な役割を果たすであろうとして、その役割の重要性とニーズを顕在化させることにある。

### 2 方法

障害のある中高年労働者の来るべき高齢期に向けて、受け入れ側の地域ではどのような理解を示すのだろうか、地域では、格差や排除が問題化し、共同で社会を支えることへの意志が弱まっているように見えるなか、社会参加への構想として、「親密圏の変容」やワークフェア、ウルリヒ・ベックが近年示してきた市民労働や社会運動にも目を向け、それを高齢者の働く集団「シルバー人材センター」における「生きがい就業」の理念という異なる角度からの視点を加え、社会連帯への新たな可能性を探ることとした。

データとして、長期キャリアを持つ中高年障害者の就業状況等<sup>1</sup>の研究報告から、資格取得状況、将来に対する夢（希望）等について分析した結果をもとに、定年後に生涯学習を続ける高年齢者と障害者教育を受けてきた大学生に「障害者に関するアンケート」を実施し、その中から地域リーダーとしてもてる能力を互いに発揮できるような関係性について模索する。

### 3 結果

「障害者に関するアンケート」結果からは、大学生と比べ、高年齢者は障害のある人へのサポート役としての意識が高く、異なる経験の人生であっても問題を多方面からとらえ、解決策の提示等、熟慮することを重視する傾向にある。さらに、ボランティア活動等の社会貢献の意欲も高く、活動が必要である 56%、既に活動しているが 8%であった。障害者に対してどのようなことを期待しますかの質問には、「持っている力・才能を活かした活躍を期待する」「地域行事や一般市民との交流にも積極的に参加してほしい」「障害者自身もできる範囲で地域への貢献意識を持ってほしい」等の回答があり、障害者・高齢者に対する施策や支援については「地域での就労のための支援体制強化」や「障害者・高齢者、地域住民を中心とした地域生活に関する相談・支援」「ボランティア活動のための場の確保」等、地域支援体制に対する要望もある。

### 4 結論

高齢期における多様化するライフスタイルと生きがいを中心に考察したが、長寿となった高齢者への対応は未経験なこととして、また、障害者就労については施設中心の就労がほとんどであるなど、高齢者・障害者がそれぞれの地域で安心して就業や生活できるような共生社会にはなっていない。

本稿では、長期キャリアを持つ中高年障害者の頑張りに焦点をあてた。アンケート結果をみると、職業経験のある高年齢者からはボランティアとして援助の手を差し伸べるための準備は十分にできていることが窺われ、地域でもこれらの状況に配慮した住民参加型支援ネットワークを進展させるなど、高齢者・障害者・地域住民等による地域とのふれあいの場の確保が重要であることが示唆される。

<sup>1</sup> 文献『障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第2期）—調査研究報告書No106』（2012）（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者総合センター：対象40歳以上